

住民説明会結果表（質疑応答を中心に）	
開催日時	平成21年9月9日（水） 19:00～20:32
会場	一色町立一色南部小学校 体育館
来場者数	105人
質疑応答の要旨	
Q	<p>メリットを聞き賛成したいと思う。現在作成されている計画が、合併により新市の計画に一色町民の声として反映されるのか。西尾市のほうが議員が多く、一色町の意見が聴いてもらえないのではないかと。一色町民の暮らしをよくする事業がしっかりと行われるのか。職員の体制は。新市における職権限・発言力は。企画的なものは組織として存在するのか。最低限今までの暮らしは確保されるのか。新市になった場合の一色町の行政の扱いは。</p>
A	<p>心配することはない。合併があった場合と、なかった場合を想定して計画を作っています。長期ビジョン、都市マス、環境基本計画などを実行していく。情報公開や周知に努めています。合併することになったら新市基本計画に反映していくこととなります。（合併を協議する際）一色町が主張できることを先手を打ってやってきたつもりです。住民の皆さんがこれらの計画を忘れず、地元から新市の議員となる人が全体計画の中で主張していくことが大切だと考えています。職員には相手を説得できるように議論の中から訓練してきました。公務員は公正、公平、中立でなければならない。一番重要なのは、住民の皆さんがこれらに関心を持つことだと思います。</p>
Q	<p>一色町のうなぎは一色産ブランドとして売れているが、今後このブランドはどうなるのか。町名や字名の取扱いはどうなるのか。住居表示はこれから地域性を尊重し、協議していきます。幡豆郡の代わりに西尾市にする方法や、大字を町名にするなど方法は多くあります。えびせんべいもうなぎも現在町外の業者が組合に入っていたりしているが、一色産ブランドとして売り出している。一色うなぎはなくならないと考えています。</p>
Q	<p>合併の基本は行財政の改革だと思う。人件費、物件費が安くなればよいと思う。合併特例法による交付金はどのくらいもらえるのか。職員が減る、議員が減るといっても資質がよければ心配はない。地方税はどのくらい助かるのか。</p>
A	<p>人件費は安城市を目標にしている。これを目標にすれば250人ぐらいの削減はできると考えています。大量退職があるこの時期に合併しないとメリットが出にくい。（人件費や物件費で）浮いた分を公共投資や行政サービスに充てていける。地方税は標準税率で課税されている。ギャップを埋めていく作業をこれからしていく。合併特例法は平成22年3月で期限が切</p>

れる。150億あれば行政需要をまかなえると思って主張した。小泉改革により交付税が大幅に削減された。この不況下では西尾市も苦しい財政状況と思う。電算システムの統一で1年かかるといわれて1年延期した。合併期限後も国からの支援策を探りながら、前向きに進めていきたい。

Q 6年前に合併が盛り上がったがなぜ当時は進まなかったのか。何か原因があったのか。

A 前回の協議は合併の方式でつまずいた。基本4条件が決まれば合併はうまくいく。新市の名称は、例えば田原と渥美などのように名前に愛着があり、なかなか決まらない。編入、新設をめぐる攻防があったと思う。今回は編入でよいとはじめから言っている。主張すべきは主張するが、最後は条例の制定権をもっているまちに合せなければならないと思っている。

Q 合併までに町会議員の任期が切れると思う。議員は資質がよければ新市でも発言できるので、がんばってほしい。

A 平成23年3月までに合併期日を延期したが、統一地方選は4月である。議員の選挙はない。西尾市が自治法上は34人、行政努力で24人となっている。選挙区が割り当てられれば、3町からは数字の上では10人は入れる余地がある。